

トルコ為替週報

2022年7月26日 | みずほ銀行欧州資金部

＜過去5週間の動き＞

(6月21日～7月25日)

USD/TRY: 16.2510～17.8500

TRY/JPY: 7.59～8.29 (参照値)

過去5週間のトルコ・リラ相場は、一時的な急騰(対ドルで+6.5%超)局面(注1)を除くと、ほぼ一貫した軟調推移。24日のリラ急騰は、現地市場引け後に発表された新規制(注2)を発端とした。週末を挟んで、確かにリラは急騰したが(注3)、金曜夜に発表された新規制にトルコ企業が呼応してリラ買いに走ったとは考え難く、この局面のリラ買いも(昨年12月来たびたび観察されてきたように)トルコ国営銀行によるリラ買い(実質的なトルコ中銀によるリラ買い為替介入)が疑われた。同局面を除いた一方的なリラ軟調基調も、引き続き、構造的な(後述)経常赤字(リラ売り需要>リラ買い需要)と同赤字を穴埋めする対内(直接/証券)投資の不在が作った値動きと考えられた。敢えて他に特徴的な値動きを指摘するならば、7月5日から6日にかけてのリラ安加速を挙げることができたが、これはリラ安よりも、対ユーロでの上昇にけん引されたドル高の値動き。独5月貿易収支の31年ぶりの赤字転落(4日)や独燃料企業破綻(債務不履行)観測などがユーロ安を演出した。その他トルコ固有の要因では、①最低賃金再引き上げ(+29%)発表(7月1日) ②導入したばかりの上述リラ建ローン規制の緩和(8日)の他、③トルコによる北欧二国のNATO加盟承認を巡る駆け引きなどが目を引いたものの、一方的なリラ軟調基調に変化を及ぼすことはなかった。

＜過去5週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
6/23	11:00	1週間物レボ金利		14.00%	14.00%	14.00%
6/24	7:00	設備稼働率	6月	77.6%		78.0%
6/30	7:00	貿易収支(USD)	5月	-10.60bn	-10.70bn	-6.13bnr
7/4	7:00	CPI(前年比)	6月	+78.62%	+79.95%	+73.50%
7/8	7:00	経常収支(USD)	5月	-6.47bn	-6.76bn	-2.95bnr
	7:00	期待インフレ率(12ヵ月)	7月	+40.23%		+37.91%
7/13	7:00	失業率	5月	10.9%		11.2%r
7/14	7:00	鉱工業生産(前年比)	5月	+9.1%	+8.0%	+10.8%
	7:00	小売売上高(前年比)	5月	+20.8%		+15.0%r
7/18	8:00	財政収支(TRY)	6月	-31.1bn		+144.0bn
7/21	11:00	1週間物レボ金利		14.00%	14.00%	14.00%
7/25	7:00	設備稼働率	7月	78.2%		77.6%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう2週間の見通し＞

(7月26日～8月8日)

USD/TRY: 17.550～18.300

TRY/JPY: 7.50～7.90

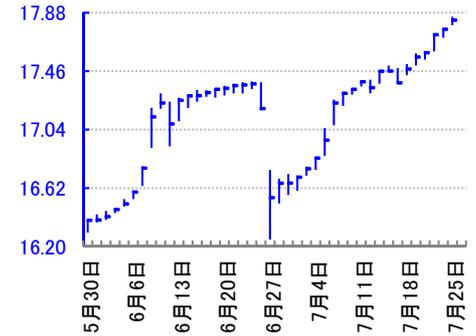
向こう2週間のトルコ・リラ相場は、足元リラ軟調基調の継続を予想。リラ安を見込むのは、構造的なリラ安要因に、変化を見込めないから。経常赤字は、燃料価格や食品価格の高騰を主因としており、その背景にあるウクライナ戦争に解決の目途が立たない以上、好転を見込むことはできない。トルコ政府が、ウクライナからの穀物輸出を可能にするために、仲介の労を取っていることは評価できるものの、世界の物価動向に目に見える影響を与える可能性は高いものを見込む。一方で、経常赤字を補うためのトルコ向け投資は、証券投資が概ね枯渇している一方、大規模な直接投資を見込む要因は見当たらない。上述①は間違いなく物価押し上げ要因だが、今年1月に最低賃金を50.5%引き上げた際には、前月比CPIは11.1%と直近5年の同月平均を9.6%ポイント上振れた。当時、既に原油価格(ブレント)は前年同月比70%前後上昇していたものの、原油価格は、現時点でも前年比+60%超と大きな変わりはない。上述②にも顕著のように、トルコ当局の対応は場当たりの/近視眼的と言えるが、こうした対応が、居住者/非居住者のリラ建資産に対する信頼を損なう可能性こそあれ、自信を深める(=保有意欲を高める)可能性を見込むことは難しいであろう。

＜向こう2週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
7/29	7:00	貿易収支(USD)	6月		-8.20bn	-10.60bn
	8:00	外国人観光客(前年比)	6月			+308.5%
8/3	7:00	CPI(前年比)	7月			+78.62%

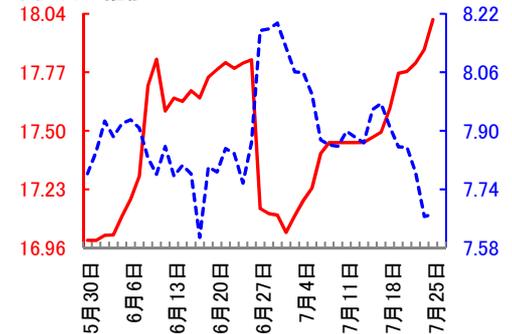
(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

USD/TRYの推移(日足/ロンドン 7:00～17:00)



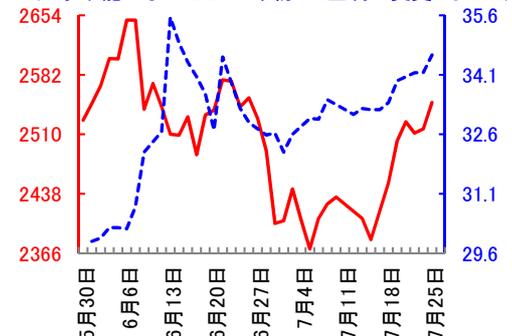
バスケット/リラの推移(トルコ中銀公示)

リラ/円の推移(ロンドン17:00)



株式市場の推移(ISE 100種指数)

長期金利の推移(5年物OIS金利: 5年物金利スワップ金利が入手不能になったため5年物OIS金利に変更しました)



(資料: トルコ中銀/トムソンロイター/ブルームバーグ)

トルコ関係主要経済指標

1週間物レボ金利		14.00%
成長率(GDP/前年比)	Q1	+7.3%
失業率	5月	10.9%
消費者物価(前年比)	6月	+78.62%
鉱工業生産(前年比)	5月	+9.1%
小売売上高(前年比)	5月	+20.8%
貿易収支(USD)	5月	-10.60bn
経常収支(USD)	5月	-6.47bn

＜お知らせ＞ 筆者休暇のため、今回の「トルコ為替週報」は8月9日の発行を予定しております。ご迷惑をお掛けし申し訳ありませんが、よろしくご承知ください。

(注1) 6月24日の欧州市場引け後から、週明け27日の欧州勢参入前に観察された

(注2) 一定規模以上の外貨を保有する企業に対しリラ建商業ローンの供与を禁じる内容で、トルコ国内企業の外貨売りを促す狙いと考えられた

(注3) 27日の欧州勢参入前に、一時、16.0300(対ドル)まで上昇(時間外)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。